

NEWS RELEASE

2025 年 4 月 10 日
株式会社三菱総合研究所
三菱総研DCS株式会社

日本企業の DX 推進状況調査結果【2025 年度速報版】を公表

取り組みが一巡し業務変革への注力に回帰、AI エージェントが変革を推進する可能性

株式会社三菱総合研究所(代表取締役社長:藪田健二、以下 MRI)と三菱総研 DCS 株式会社(代表取締役社長:亀田浩樹、以下 DCS)は、売上高 100 億円以上の国内民間企業に勤務する 1,000 名を対象とした「DX 推進状況調査」を実施しました。4 回目となる今回調査で明らかになったデジタル化進展度や成果など、取り組みの実態について速報版を公表します。

1. 背景

MRI と DCS は、企業のデジタル化進展度や推進課題の把握を目的に、2021 年から独自調査を実施しています。4 回目となる今回の調査では、過去4年間の調査結果を踏まえた時系列の推移や、生成 AI、AI エージェント等の注目テーマに対する取り組み状況を確認しました。

2. 調査概要

- (1) 調査時期:2025 年 1 月
- (2) 調査方法:Web アンケート
- (3) 調査対象:

対象企業:直近 1 年間の売上高が 100 億円以上の企業

回答者:自社内の DX の取り組みに関与している従業員 1,000 名

3. DX 推進状況調査結果(速報版)

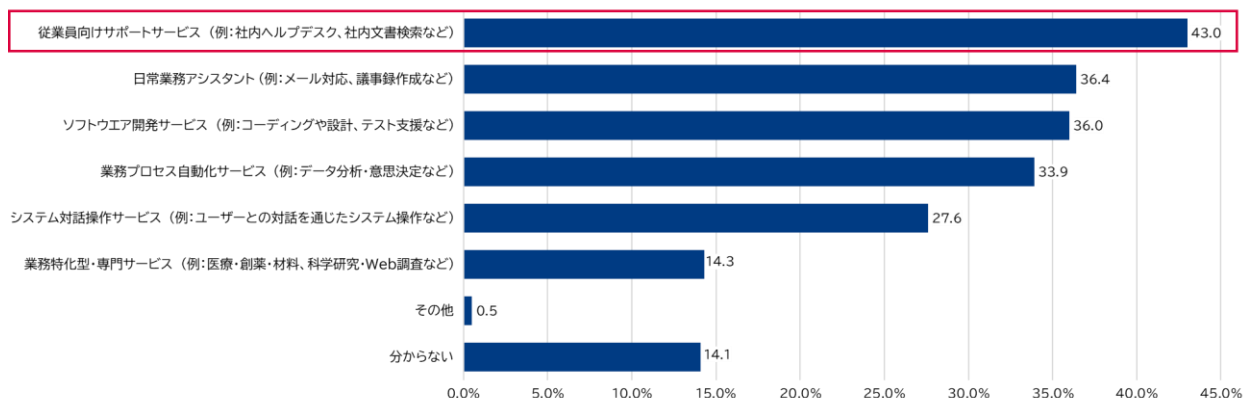
DX の取り組みの変遷や現状、技術環境の変化に着目し、デジタル化進展度(デジタイゼーション/デジタライゼーション/ビジネス変革)、DX の成果、生成 AI 活用状況、AIエージェントへの期待、DX の取り組みの焦点の変化、DX 推進に求められる人材、今後のDXの取り組み意向に関するトピックを速報版として公表します。詳しくは「[DX 推進状況調査結果【2025 年度速報版】](#)」をご覧ください。

以下、注目ポイントを抜粋します。

<注目ポイント>

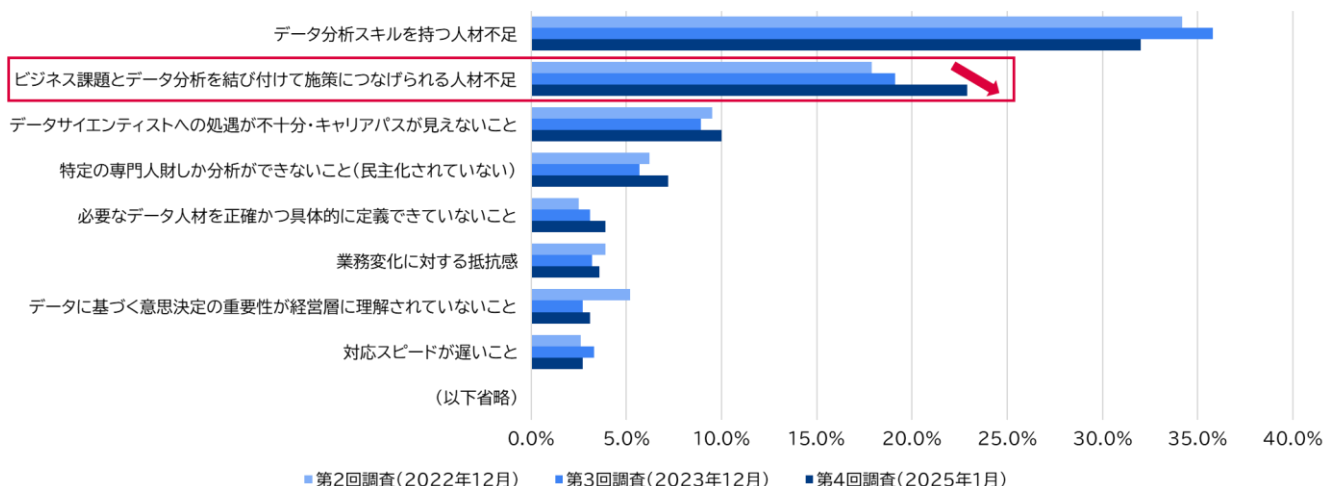
- ビジネス変革に取り組み想定どおりの成果を出す企業と、デジタライゼーションまでに留まり想定した成果が出ない企業とに二極化
- ビジネス変革に取り組む企業では、DX の取り組みの焦点がビジョン策定・実行から業務改善に変化
- 今後、自社に導入したいAIエージェントサービスでは、「従業員向けサポートサービス(社内ヘルプデスク、社内文書検索等)」が最上位。次に、「日常業務アシスタント」「ソフトウェア開発サービス」「業務プロセス自動化サービス」が続く

(設問)貴社が今後自社に導入したいAIエージェントサービス(導入中含む)を教えてください。(複数回答)



- DX 人材の課題では、「データ分析スキルを持つ人材不足」が減少した一方で、「ビジネス課題とデータ分析を結び付けて施策につなげられる人材不足」が増加

(設問)データ駆動経営を推進していくにあたり、最も課題となっていることは何ですか。(単数回答)



4.今後の DX 推進状況調査結果の発信について

本速報版をもとに以下についてさらに分析し、6月に「DX 推進状況調査結果(詳細版)」を公表予定です。

▼DX 推進状況調査結果(詳細版)の内容(予定)

- 先進的で成果を出す企業と停滞傾向の企業との二極化
ビジョン・投資・体制等、さまざまな観点で先進企業の特徴を可視化
- DX の成果
DX の財務成果や経営への貢献を確認
- AI 利用の現状と今後の展望
利用率や用途、業務適用のポイントを整理
- 業界別傾向
業界別にデジタル化の取り組みを確認 等

本件に関するお問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所
〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目 10 番 3 号

【内容に関するお問い合わせ】

デジタルイノベーション部門
統括室 梅田、平島
メール：service@mri.co.jp

【報道機関からのお問い合わせ】

グループ広報部
メール：media@mri.co.jp

三菱総研DCS株式会社
〒140-8506 東京都品川区東品川四丁目 12 番 2 号
広報部
メール：kouhou@dcs.co.jp